

目的 前報において，典型的な安定群（L群）と典型的な高不安群（H群）とにおいて，L群では動作サイクルが大きくて安定しているのに対してH群では動作サイクルが小さく身体が揺れやすい傾向を示すこと，また心拍間隔のCV値の変動やGSR等の出現頻度等も両群では異なる傾向を示すことを見出した。これらの知見から，日常の生活場面においても，性格特性の相違によって，異なる動作傾向を示すのではないかと思われる。本報告では日常の生活行動，とくに家事行動中における両群の動作特徴について考察する。

方法 前報でもちいた手法を用い，1981年と1982年に，581名の女子学生中に見出された150名のL群と49名のH群の調査対象が，夏期休暇中に自宅で行った一日の生活時間調査をもとに，生活行動時間を算出し，分散分析によってL群とH群との間の相違を検討した。

結果 平均家事行動時間は，一日の活動時間帯の約4割弱を占めており，H群よりもL群が多かった。L群はH群に比べて家事行動中により多く全身移動的動作を行ない，対人的家事行動が顕著に多かった。またL群は手先動作，上肢上半身動作，全身移動的動作をほぼ同程度に行っているのに対し，H群では上肢上半身動作が多かった。また生理的必要時間については両群の間に相違は認められなかったが，静的余暇活動はH群に多く，動的余暇活動はL群に多く見出された。